

平成22年度 京都府立海洋高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p data-bbox="174 304 591 421" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">教育活動全体の活性化による水産・海洋の将来のスペシャリストの育成</p> <p data-bbox="174 437 613 523">1 専門学科としての特色を生かした学力の充実・向上及び生徒の希望進路を実現する進路指導の充実</p> <p data-bbox="174 549 613 635">2 生徒の規範意識の醸成等、生徒指導の充実による安心・安全な学校づくり</p> <p data-bbox="174 660 613 724">3 部活動・ボランティア活動等の充実による特別活動の活性化</p> <p data-bbox="174 750 613 868">4 保護者、地域、小・中・高等学校、関係諸機関との連携等、開かれた学校づくりによる教育活動全体の活性化</p> <p data-bbox="174 893 524 925">5 教職員の資質能力の向上</p>	<p data-bbox="647 284 741 309">《成果》</p> <p data-bbox="647 312 1543 405">1 一人ひとりに応じたきめ細かな指導を組織的に行った結果、国公立大学及び私立4年制大学への合格者が増加した。就職においては、経済不況に伴う求人数減にも関わらず希望進路をほぼ達成できた。</p> <p data-bbox="647 408 1543 491">2 きめ細かな粘り強い生徒指導により、日常のあいさつ・マナー及び授業規律等をレベルの高い状態で維持できた。その結果、落ち着いた学校生活が営まれ、生徒指導件数は、昨年を下回った。</p> <p data-bbox="647 494 1543 609">3 学力向上フロンティア校、目指せスペシャリスト事業に取り組んだことにより教育内容の充実が図れ、学校が活性化した。また、学力面の成果だけでなく各種関連機関との連携も深まり、小中学校へ本校教育内容の情報発信にもつながった。</p> <p data-bbox="647 612 1543 695">4 カッター部の全国大会初優勝を始め、レスリング部、ボート部も全国大会出場を果たした。また他の部及び同好会の活動も活発に行われた。</p> <p data-bbox="647 699 1543 750">5 広報活動を充実させ情報発信に努めた結果、志願者数の増加につながった。</p> <p data-bbox="647 753 1543 804">6 義務的経費等の執行状況を毎月職員会議で提示し、経費削減につなげた。</p> <p data-bbox="647 807 741 833">《課題》</p> <p data-bbox="647 836 1543 887">1 進路指導の一層の充実を目指し、各分掌間並びに教職員間の連携の強化を図る。</p> <p data-bbox="647 890 1543 941">2 目指せスペシャリスト事業に取り組み、専門教職員の資質・能力の向上を目指し研究能力を高める。</p> <p data-bbox="647 944 1543 995">3 新学習指導要領を見据えて、各学科・コースの教育内容の充実と教科指導力の向上を図る。</p> <p data-bbox="647 999 1543 1050">4 生徒指導について、教職員の一一致した指導を強化し、規律ある学校生活の維持・継続に努め、安全で安心な学校生活を引き続き保障する。</p> <p data-bbox="647 1053 1543 1104">5 生徒募集に関しては、引き続き中丹・丹後地区に強く働きかけるとともに、海洋高校の教育活動を知らせるための広報活動に力を入れる。</p> <p data-bbox="647 1107 1543 1158">6 分掌・教科による校内研修は実施できたが、今後さらなる授業改善に向けた自己研修を充実させなければならない。</p> <p data-bbox="647 1161 1070 1187">7 道徳・人権教育の充実を図る。</p>	<p data-bbox="1579 312 2078 376">1 危機管理意識に基づく、安心・安全な学校生活の確立</p> <p data-bbox="1579 379 2078 443">2 目指せスペシャリスト事業等による教育活動の活性化と研究活動の充実</p> <p data-bbox="1579 446 2078 497">3 早期からのきめ細かな指導による希望進路の実現</p> <p data-bbox="1579 501 2078 552">4 授業規律の確保と生徒指導の一層の充実</p> <p data-bbox="1579 555 2078 606">5 部活動・生徒会活動・ボランティア活動等の活性化</p> <p data-bbox="1579 609 1908 635">6 道徳・人権教育の充実</p>

[評価の方法] 評価は具体的方策の項目ごとにA～Dの4段階で表記する。

A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

[成果と課題の記入方法] 分掌・教科全体で記入。ただし、各分掌・各教科の実情により重点目標ごとに記入してもよい。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	教職員の指導力の向上を図るため、分掌・教科の取組を充実する。	分掌の主催による研修を実施し、組織的な取組を展開するとともに、個々の教職員の指導力の向上を図る。 学校評議員等の外部評価を学校経営に反映させ、教職員の意識改革や授業改善に取り組む。	C C	
	魅力ある学校づくりを展開する。	目指せスペシャリスト事業を活用し、水産教育並びに普通科目の充実を図り、特色ある学校経営を展開する。	B	
総務企画部	広報活動を活性化させる。	ホームページをPDF化し、4回/月以上の更新を目指す。 メール配信登録者数、校内30人以上を目指す。 海洋だより発行回数、20回/年以上を目指す。	D D D	
	目指せスペシャリスト事業を軌道に乗せ、充実させる。 新しい教育課程の研究・検討を始める。	目指せスペシャリスト事業における生徒アンケートで、「満足した」の回答者数、70%以上を目指す。 同専門学科教員のアンケートで、「関連する事業に積極的に取り組めた」回答者数、70%以上を目指す。 平成25年度より実施される新教育課程についての研修・検討会を2回/年以上実施する。	- - C	
	PTA活動に、多くの会員の方に参加してもらえるように努める。	行事1回の参加者数に、昨年度比20%以上の増加を目指す。 保護者宛配布文書の行き渡り率70%以上を目指す。	B -	
	人権教育の充実並びに教職員の人権意識の高揚を図る。	生徒等対象の人権講演会を実現し、「ためになった」の回答者数70%以上を目指す。 教職員対象の人権意識高揚に係る研修・講演会を実施する。	- -	
教務部	学力の向上を図る	教科指導力の向上を図り、授業改善を推進する。 教科と連携した習熟度別授業の機能的な運用と定着を図る。 教科・学年部と連携し、生徒の家庭学習の習慣化を図る。	B -	学年部、生徒部と連携し、指導の徹底を図っている。
	不認定科目数の減少を図る。	成績不振生徒に対する教科指導と保護者呼び出しを徹底する。 イエローカード・レッドカードの指導を強化する。 授業規律の確保を図る。	B B	
	円滑な学校運営の推進	学校運営上ミスがあった際、必ず原因を追及し、改善を図る。 分掌内での円滑なコミュニケーションを図る。 他分掌との円滑な情報交換・意見交流を行う。	C - -	
生徒指導部	生徒指導を充実する。	服装・頭髪・携帯電話等、公共のマナー向上についての一斉指導及び学年、クラス単位の指導を行う。	B	
	生徒会・部活動を充実する。	年間通じて生徒会活動を充実させる。部活動については競技力向上と加入率向上に努める。	B	
	ボランティア活動を充実する。	年間通じてボランティア活動を行う。生徒会やボランティア同好会、寮生と協力して学校外の活動を充実させる。	B	
進路指導部	望ましい職業観や進路意識を育成する。 2年生進路目標の決定70%（2月末） 未内定者3名以内 初年度離職率10%以内	進路HR.1年生7回、2年生10回、3年9回	B	2年生は下半期に集中実施の予定 2年生は3学期実施予定 下半期に調査予定
		進路指導部の個人面談2・3年全員実施(3年6月2年2月)	B	
		卒業生の状況調査(就職2月、進学随時)	-	

進路指導部	進路先に応じた学力や社会人基礎力を育成し、希望進路の合格（内定）につなげる。 1次内定率80%以上 外部模試偏差値の向上 3P以上 希望進路決定と満足度の向上	就職補習6回と就職、小論文模試2回、面接練習6回	A	3年生で全て実施済み 外部模試継続中、1学期の参加率75% 3学期実施予定
		外部模試の実施と分析（1年4回、2年4回） 進学補習の実施率95%以上、参加率80%以上	B	
		進路意識調査の満足度85%以上	-	
進路指導部	校内外との連携を強化し、進路指導力の向上を図る。 進路先との信頼関係を強化する。 進路指導力の向上。 出願手続きの的確な指導	求人開拓訪問50社、大学訪問15以上	B	大学訪問計画中 進路研修2回目を計画中 不手際なし
		進路研修2回と個別指導の徹底（週1回以上）	B	
		出願手続きの不手際や遅延をなくす。	A	
保健部	基本的な生活習慣を確立する。 教育相談体制を強化する。	食事、睡眠のリズムを安定させるための指導と、食育、性教育、薬物乱用防止等の保健指導を充実させる。	A	
		生徒の状況把握と情報の共有化を図り、個々の課題を組織的に援助し、解決する教員体制を充実させる。	A	
1学年部	高校生になるための生活全般にわたる指導を徹底する。	中学生活に訣別させる。 本校での生活を快適にするための指導を徹底する。 保護者と密に連携する。	C B A	
	教師力の涵養	目標や狙いを実現する力を養成する。 与えられた仕事を、責任を持って遂行する。 専門教科のみならず、教員として必要な知識を貪欲に習得する。また、生徒分析の基盤となる感性の鋭敏化を図る。 研究会・研修会への積極的に参加する。	B B B A	
2学年部	進路目標を決定させる。 進路目標決定率70%以上（2月）	進路学習の効果的な実施を図り、その定着を学年団等で徹底する。 学年で月刊目標を設定し、継続的に進路について考える機会を設ける。（6月と11月）	- D	
	中だるみを防止し、進路目標実現に向け、各生徒の実力を伸長させる。 仮進級0名 生徒指導件数年間5件以内 進学補習参加率80%以上 部活動参加率80%以上 全員が資格を取得し、学年の取得数合計200以上	日々の授業を大切にすることを継続的に指導する。	-	
		生徒指導に重点を置き、日々の指導を徹底する。 補習への参加は、科学科全員必修とし、他の学科も4大希望者は必修とする。 強く部活動への参加を促す。 資格取得の重要性を理解させ、強く取得を促す。	- - - -	
	分掌内及び分掌間の連携を図る。	週1回の学年会を実施する。 学年で月間目標を設定し、その徹底を図るために必要に応じて分掌間会議の実施や朝礼での連絡を行う。	- -	

3 学年部	希望進路を実現させるため、きめ細かで徹底した進路指導を行う。また、そのプロセスを確実に実践することで教員の指導力向上に努める。	各学科・コースの特色及び生徒の適性や能力に応じた進路希望先を決定するために、面談を強化する。(8月までに3回) 第1希望先での進路実現を目指すため、生徒個々のスケジュールを管理し、適切な指導を段階的に行う。(分野別スケジュール表の作成) 各部との連携を密にとり、役割分担を明確にして効果及び効率を高める。(連携会議10回以上)	A ----- C ----- C			
	最高学年としての到達度や立場を意識し、将来活躍できる資質や習慣を獲得する。	資格取得の推進(平均取得1個/人): 取得計画を作成させ、難易度の高い資格(教育長表彰50点以上)を取得させる。 部活動の促進(定着率80%): 積極的な活動を呼びかけ、活躍させる。 PDCAサイクルの定着(7期)と成果の確認(満足度70%)	B ----- C ----- -			
海洋科学科	(1年生) 専門学習への動機付けを図る。	海洋科学科希望生徒のうち、大学進学・公務員希望者の割合を100%とする。	-			
	(2年生) 目指せスペシャリスト事業を通じて、専門学習への動機付けを図る。資格取得の増加を図る。	専門系施設への訪問・見学を年8回以上実施する。 漁業検定・食品検定で、全員受検を目指す。	-			
	(3年生) 目指せスペシャリスト事業を通じて、大学進学希望生徒の動機付けと希望進路達成を図る。	教育長表彰者を80%以上とする。 関連大学合格者を50%以上とする。 生徒研究発表で、日本海南部水研に出場する。	- ----- D			
海洋工学科	(航海船舶コース) 目指せスペシャリスト事業に関わる取り組みを発展させせるとともに、教員の指導力向上に努める。	京都府沿岸域における貝類の生育に適した海洋環境を解明する。(観測295回、四季の海洋環境の解明、生育を促進する水深の解明、生育に適した育成場の発見) 専門教育を一層推進し、知識・技術・意識の向上を目指すことで将来のスペシャリストを育成する。(海技士6名以上合格、3年生: 実習項目の充実・2年生: H21年度の継続、70%以上の関連進路)	B ----- C			
	(海洋技術コース) 目指せスペシャリストの取組や海洋工学、作業潜水等に必要とされる知識と技術を習得させ、海のスペシャリストを育成する。	コース関連進路先の合格、内定を70%以上とする。 潜水士8名、レスキューダイバー14名以上の合格を目指す。 専門機関との連携により貝類の保全研究を推進する。	- ----- B ----- B			進路決定後に評価 潜水士8名合格、レスキュー 講習継続中 南部水研優秀賞 事故0件
	(総合実習) 総合実習、ダイビング、課題研究で事故やミスをなくす。		A			
海洋資源科	(栽培環境コース) 目指せスペシャリスト事業に関連しながら、魚類や貝類等の飼育に関する知識・技術を向上させる。	栽培漁業技術検定1級、2級の合格率向上を目指す。 トラフグやヒラメ等の魚類飼育および販売の発展を目指し、新たな飼育技術を模索する。	B ----- C			
	(食品経済コース) 「目指せスペシャリスト」事業を発展させ、生徒の知識・技術を向上させる。	資格取得を推進し、社会でのスペシャリストを目指す。 研究活動を通じて、関連進路に興味を持たせ、コースに関連した進路を目指す。	A ----- C			

事務部	学習環境の整備と施設・設備の安全管理の徹底に努める。	来校者には迅速・親切・丁寧な対応を心掛けるとともに、不審者の侵入を阻止するため、確認並びに把握については複数で行う。 施設・設備の安全点検を実施し、危険並びに改善箇所の早期発見・早期改修に努める。特に老朽化や塩害等によるトラブルを未然に防ぐために徹底した点検を行う。(各月2回)	B			
	経費の節減に取り組む。	義務的経費等の7項目の支出状況を職員会議で報告し、毎月の重点項目を設定・依頼することで、更に経費の節減につながるよう全教職員に協力を求める。(毎月1回)	C			
寮務部	規律正しい生活を高める。	舎室の整理整頓を励行し、毎朝、寮生役員で点検する。寄宿舍内外の環境美化に努めるとともに、寮生役員の清掃指導に責任を持たせ、リーダーの育成を図る。食数の確認を確実にし、厨房に迷惑をかけない。また、残飯を作らない。	B			
	寮生の問題行動を減らす。	反省文を書くことのないようにする。なお、反省文は1人年間5枚以内を目標とする。大きな声で節度ある挨拶を励行し、他の生徒の模範となるようにする。	C			
実習船	安全、安心を第一に運航できるように努める。	生徒乗船中は、毎日生徒、船員の体調チェックを行う。(健康チェック表を使用) 国際航海、国内航海は非常退船避難総練を行う。	A			
	船舶職員と教員・学校との連携を深める。	教職員と実習打合せを行う。 実習終了後は反省会を行い今後の組み立てに考慮する。	A			
	実習中、生徒に接する機会を多くする。	マンツーマンで生活指導等を行う。	B			
研 修 計 画	生徒指導部	制服のTPOについて(公共のマナー向上)やる気を育てる講演会 1年生対して講演会を行う。	-			
	総務企画部	目指せスペシャリスト事業を充実させる。 教職員のマナーアップを図る。	-			
	教務部	教科指導力の向上と授業改善 各学科・コースで、専門学科教員全員が研究活動に取り組む。 中学生・保護者・外部の方等へのマナーアップに係る講演会を実現する。	-			
	進路指導部	進路研修会 第1回「キャリア教育の推進」 第2回「学力向上について」 研究授業の実施と授業改善に向けての研修をする。 生徒の学習意欲・向上に向けた評価のあり方について研修する。	A		4/28 保護者教職員研修実施済み	
	保健部	基本的な生活習慣の確立をする。 教育相談体制の強化をする。 基礎力診断テスト等の取組を通じて、学力向上に結びつける事例や実践を学ぶ。 食事、睡眠のリズムを安定させるための指導と、食育、性教育、薬物乱用防止教育の保健指導を充実させる。 生徒の状況把握と情報の共有化を図り、個々の課題を組織的に援助、解決する教員体制を充実させる。	-		10/28 教職員研修を予定	
			A			必要に応じて関係者会議を開催

研 修 計 画	海洋 科学科	研究活動への指導力を高める。 目指せスペシャリスト事業 の充実を図る。	日本海南部生徒研究発表または、農業系高校生徒研究発表大会 を視聴する。 育成筏の使用率50%以上を目指す。	D A		
	海洋 工学科	(航海船舶コース) 目指せスペシャリスト事業 に関わる専門知識の習得と教 員の資質向上を図る。	海洋環境に関わって、大学に研修に行く。 ----- 各教員の新規チャレンジを3項目以上実施する。	C B		企業と日程調整中 日程調整中
		(海洋技術コース) 溶接技能研修 救急法研修	造船会社の見学・研修を通じて、安全確保や技能向上に關 する研鑽を深める。 ----- 日本赤十字社救急法 救助員講習を受講し、最新の救急処置法 を習得する。	- -		
	海洋 資源科	(栽培環境コース) 魚介類の種苗生産技術に關 し、新しい技術習得を図る	魚類における開腹手術技術の習得を目指す。 目指せスペシャリスト事業に係るイワガキ種苗生産技術を習 得する。	D C		チョウザメ死滅のため実 施できず。
	国際 理解 教育	異国文化学習(アメリカ) ----- 国際饑餓問題についての講演 (日本国際饑餓対策機構)	AETを講師として自国と日本の相違点・日本からは見えない 自国の特徴や現在の課題等について生徒・教員に理解を深める。 世界の食糧問題と子どもの権利・戦争についての現状を地球人 としての知る責任と私たちができる行動について考える。	B -		